

平成21年度長期社会体験研修修了報告書

研修者名 松井 良介

所属校種 高等学校

研修先企業・部署名 サンデン株式会社、サンデンファシリティ株式会社ECOSグループ

1 研修内容

- (1) 新入社員研修【4月1日～30日】(研修場所：サンデンコミュニケーションプラザ)
 - ・人材開発グループで、事務局として研修運営の補佐、及び講義参加。
- (2) 生産実習【5月1日～5月29日】(研修場所：サンデン(株)赤城事業所生産部組立課)
 - ・自販機の冷却ユニットの配線、梱包
 - ・アイスコーヒーサーバー、冷却層の組立てなど
- (3) サンデンファシリティ(株)ECOSグループで業務実習【6月1日～】
(研修場所：サンデンファシリティ(株)サンデンフォレスト管理事務所)
 - ・小中学生の工場見学案内、自然体験活動の補助
 - ・サンデンフォレスト内の緑地管理、散策道整備、安全点検
 - ・赤城自然塾での環境教育プログラム策定など

2 研修から学んだこと

(1) 新入社員研修から見た社会が望む人とは？

「基本的生活習慣の確立」、「集団への帰属意識」、学校で重要視されるこの2点はサンデンでの新入社員に対する研修でも重要視されているように思いました。1週間にわたる合宿研修で新入社員は、自身の生活習慣を見直し、愛社精神を育みながらチームワークのとり方を学んでいました。

生徒に就職指導を行う高校にとって、社会は「お客様」であり社会のニーズに合わせた教育が不可欠です。仕事だからと当たり前のように行ってきた、学校での服装・頭髪、遅刻指導の重要性を認識できたとともに、理想的な集団形成を促すためのHR経営であり、授業でなければならないことを学びました。

(2) STQM (Sanden Total Quality Management)

「毎日毎日の創造改革努力を積み重ねる行動」と社内では定義されています。工場での生産活動を体験させて頂くことで実態を学びました。小集団による改善活動に日々、PDCAを念頭に取り組み、実績を発表し合い、世界規模で切磋琢磨しています。大切なのは、小集団の活動であること。これにより「自分も関わっている、責任がある。」という自覚を生み、「全員経営」の文化が築かれています。このことは学校でのHR経営においても、日頃の業務においても大変重要な視点であると学びました。

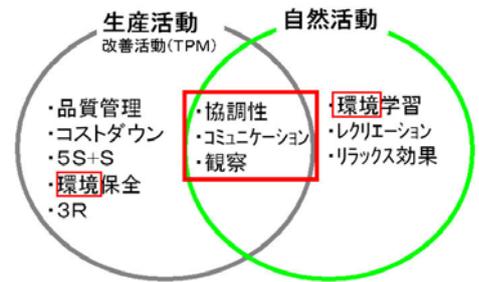
(3) 環境学習のあり方

「自然環境との共存」をテーマに開発されたサンデンフォレストでは、サンデン(株)による生産活動だけでなく、個社であるサンデンファシリティ(株)により、小中学校を対象とした環境学習の補助を行っています。また独自に「NPO法人あかぎくらぶ」を設立し、自然を素材としたプログラムを実施したり、「赤城クリーン・グリーン・エコネットワーク」に参画し、周辺施設と連携して環境教育プログラム策定・

実施に積極的に取り組んでいます。

自然活動によって育まれる多くの資質は社会人として必要不可欠であり、工場での生産活動に必要な不可欠な要素でもあります。そして、学校で行われる教育のみならず、企業での人材育成でも重要な役割を果たしています。

環境教育も自然活動などの背景にある教育的価値を考えながら、発達段階に合わせた指導計画が必要となっていくことを実感することができました。



自然活動を通じて、生産活動に不可欠な資質を育むことができる

3 所感

(1) グループの力

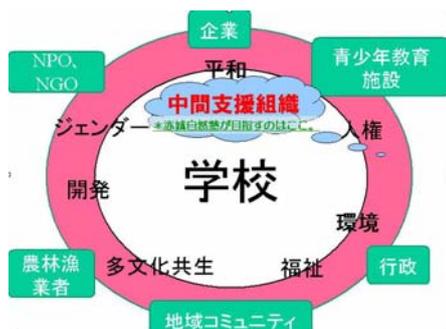
新入社員合宿研修、工場での改善活動などで展開された小集団での活動は、個々の能力が積算された素晴らしい成果を出しているように感じました。お互いが補完し合い共調できる団体づくりができるようになりたい。そのために、今まで「習うより慣れる」の気持ちで注目してこなかった、リーダーシップやファシリテーション力について、研鑽を積んでいきたいと思います。

(2) 長期社会体験研修

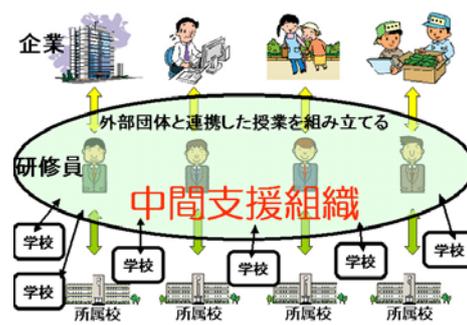
NPOでの活動に関わっているうちに、ESD（持続可能な開発のための教育）の取り組みについて知ることができました。学校教育の中で行われている「〇〇教育」は学校内だけで完結せず、企業、行政、地域はじめ多くの団体と結びつき、座学で終わらず体験してこそ、「楽しむ→続けられる→持続可能」というサイクルが出来ることを、環境教育を切り口に気づくことができました。

学校では、「生徒に体験をさせたい」という意識はあっても、場所や機会を見つけ、授業・実習を組み立てるのに多大な時間を要し、実施するのが困難な状況もあるように思います。総合学科の高校でも、福祉を専門としてない職員が、地域の社会福祉協議会と連携を取りながら授業を組み立てるのに大変苦勞をされた話を聞いたことがあります。

この長期社会体験研修は、学校と外部団体との繋がりをもつ絶好の機会です。学校と外部団体が連携し授業を組み立てる支援を行う中間支援組織があれば、各分野で幅広いだけでなく奥行きのある教育が展開できるのではないかと。長期社会体験研修はその組織のコアと成り得るのではないかと思います。



学校での「〇〇教育」を外部団体と連携して行えば、きっと楽しいことができる。中間支援組織があれば実施しやすい。



長社研をコアに組織ができれば、研修員がいない学校でもネットワークを活用しやすい。